

中国では大型連休が1年に2回あります。2月ころの春節と呼ばれる旧正月と、10月の国慶節であり、いずれも1週間の連休になります。中国人はこのうち春節を重要視しており、都市に働きに出てきている地方出身者は、1年に1度、春節の時期に故郷に帰ることが多いと思います。実際には春節休暇の少し前から故郷に戻る中国人が多いため、上海などの大都市では、春節の2、3週間前から徐々に人が減り始めます。特に除夜と呼ばれる大晦日には家族が揃って食事をするを大切にしており、1年に1度は家族が顔を合わせる良い機会となっているようです。

ただコロナ禍となって以降、春節に故郷に戻ることを制限されたり、戻ることができるとしてもPCR検査や故郷での隔離を要求されたりするため、昨年や今年は故郷に戻らなかったという人も多いようです。そのため徐々に家族で集まって食事をするのが、コロナ禍以前に比べると少なくなったのではないかと感じます。

今回の春節休暇は、2022年1月31日の大晦日から1週間でした。この春節期間中の2月4日、北京冬季オリンピックが開始されました。そのためオリンピックの開会式では春節をイメージした映像や出し物があったことが記憶に新しいです。中国ではあまりオリンピックが盛り上がっていないのではないかと一部の報道もありました。

確かに中国はゼロコロナ政策を採っているため、海外からの選手団や記者団はバブルと呼ばれる完全に隔離された

エリアで生活しています。そのため中国に住む人々と選手団との交流は一切ありません。また一部の地域でオミクロン株の患者が発生したため、中国の一部の都市では厳格な移動制限がかけられ、PCR検査を必要とする場所が増加しています。さらに北京オリンピックが原則として無観客で行われているため、私の知る限りオリンピックを観戦しに行ったという人は皆無です。

しかし上海の人々にとっては、北京で行われているオリンピックであり、そもそも選手との交流等が期待できなかったことや、街中ではオリンピックに関係するポスターや、マスコットキャラクターであるビンドゥンドゥンが飾られており、オリンピックが開催されていることをそれなりに感じていると思います。またアメリカ人とのハーフの谷愛凌選手の話や、どこの国がメダルを取ったなどの話は毎日されており、それなりに盛り上がっているように感じます。

今回の北京冬季オリンピックは国際情勢が緊張している中での開催となっていますが、オリンピックは本来平和の祭典であり、一生懸命練習してきた選手たちが全力を出し切ることによって競い合う素晴らしい舞台だと思います。それぞれの国の人々がフェアに選手を応援して、素晴らしいプレーを讃えあう場であってほしいと願っています。

以上

具体的な事案に関するお問い合わせ ☒ メールアドレス : info_china@ohebash.com

[back to contents](#)

本ニュースレターの発行元は弁護士法人大江橋法律事務所です。弁護士法人大江橋法律事務所は、1981年に設立された日本の総合法律事務所です。東京、大阪、名古屋、海外は上海にオフィスを構えており、主に企業法務を中心とした法的サービスを提供しております。本ニュースレターの内容は、一般的な情報提供に止まるものであり、個別具体的なケースに関する法的アドバイスを想定したものではありません。本ニュースレターの内容につきましては、一切の責任を負わないものとさせていただきます。法律・裁判例に関する情報及びその対応等については本ニュースレターのみに依拠されるべきでなく、必要に応じて別途弁護士のアドバイスをお受け頂ければと存じます。